

多賀城跡

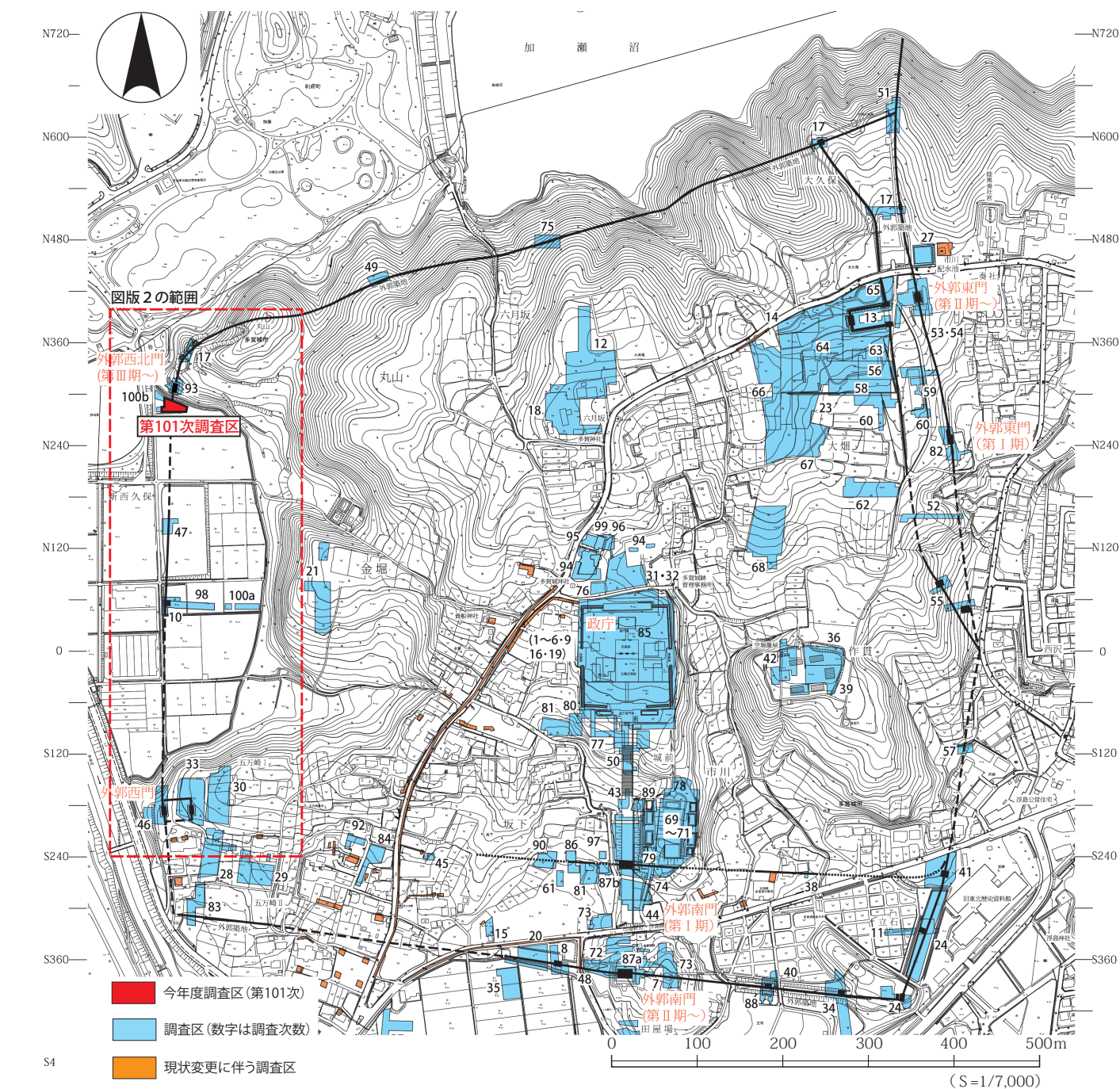
1. はじめに

宮城県多賀城跡調査研究所では、昭和44年(1969)以来、特別史跡多賀城跡の発掘調査を計画的に実施し、遺跡の実態解明に向けた研究を進めています(図版1)。今年度は、西辺地区で外郭西辺を対象に調査を実施しましたので、その成果を公開します。

第101次調査現地説明会
令和7年11月15日(土)
午前10:30～12:00
宮城県多賀城跡調査研究所

多賀城政庁の変遷

第Ⅰ期：創建(724年頃)～大改修(8世紀中頃)
第Ⅱ期：大改修(8世紀中頃)～火災(780年)
第Ⅲ期：火災からの復旧(780年)～地震(869年)
第Ⅳ期：地震の復興(869年)～11世紀前半



図版1 第101次調査区の位置

2. 調査の目的

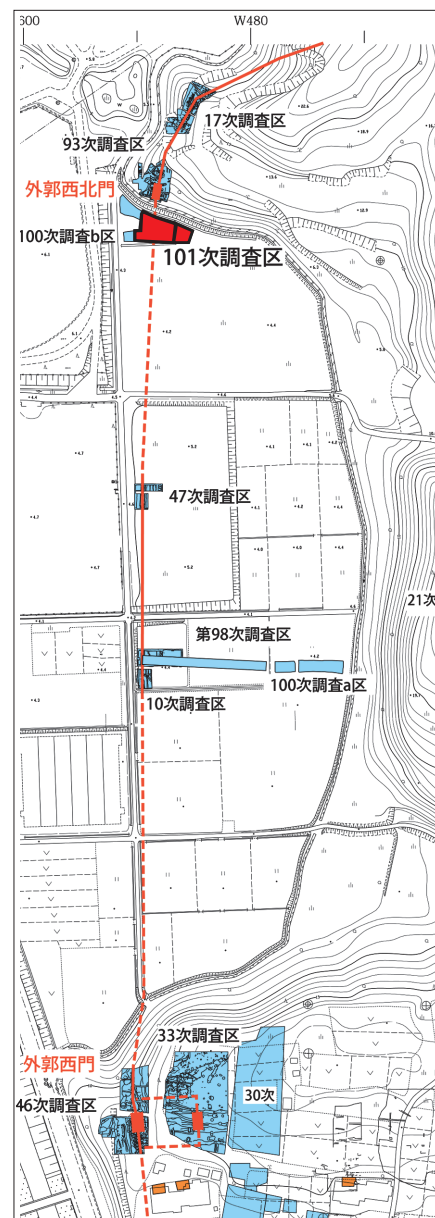
これまでの成果

外郭西辺は、政庁から西に約530～540mの位置を、南北方向で直線的に約660mのびることが分かっており、中央部が低地部に、それ以外の南北両端は丘陵部に立地しています(図版2)。低地部ではこれまで、昭和45年度(1970)に第10次調査(図版5)、昭和59年度(1984)に第47次調査(図版6)、令和5年度に第98次調査、令和6年度に第100次調査を実施し、3時期(古い順にA→B→C期)の材木塀とその外側の大溝や内側の整地などを確認しています。第98・100次調査区では、最も新しい材木塀が灰白色火山灰の降下(10世紀前葉)後に改修されたことが明確になりました。

北側丘陵部では、平成31年度(2019)に第93次調査を実施し、外郭西辺に取り付く八脚門(西北門)とその北側の築地塀を発見しました(図版3・4)。門は掘立式から礎石式へ変遷することが分かっています。

調査区の位置と目的

今回の調査区は、低地部北端から北側丘陵裾部にかけて設定しました。第100次調査に引き続き、第93次調査で発見した西北門南側における区画施設の構造・年代等を解明することを目的としています。



図版2 周辺の調査区
(S=1/4,000)



図版3
第93・100次調査b区と
第101次調査区の位置
(S=1/500)



図版4 第93次調査(西から)



図版5 第10次調査(北から)



図版6 第47次調査(南から)

3. 調査成果

材木堀、材木列、溝、整地層を確認しました（図版12）。これらは外郭西辺の区画施設に関わる遺構と考えられます。出土遺物には、瓦、土器、木製品、木簡（図版11）、ウマの歯などがあります。

整地層

低地部で確認した整地層 1・2 と、低地部から丘陵部に至る場所で確認した整地層 3・4 があり、重複関係から整地層 1・2 → 3 → 4 の順となります。

整地層 1・2 は材木堀の、整地層 3・4 は材木列以北の区画施設の盛土整地と考えられます。

材木堀（図版 7・8）

布掘状（溝状）の掘方の中に丸太材を密接に立て並べた南北方向に延びる堀です。ほぼ同位置で 2 度改修されており、3 時期（A→B→C）あることを確認しました。調査区北端まで延びる A は約 11.5m、北端が材木列と接続する B・C は約 10m 分検出しています。C は直線的ですが、A・B は途中でやや西側に屈曲しています。材木はあわせて 40 本以上認められ、最も残りの良いもので直径約 30cm、長さは地中部分を含めて約 70cm あります。

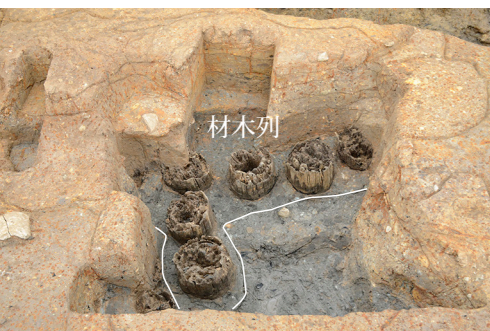
年代は、C の材木を立てるために埋めた土の中に灰白色火山灰（十和田 a 火山灰）が含まれていることから、C が火山灰降下後に改修されたことがわかります。



図版 7 材木堀（南から）



図版 8 材木堀掘方の断面（南から）



図版10 材木列（南から）



図版 9 大溝の断面（北西から）



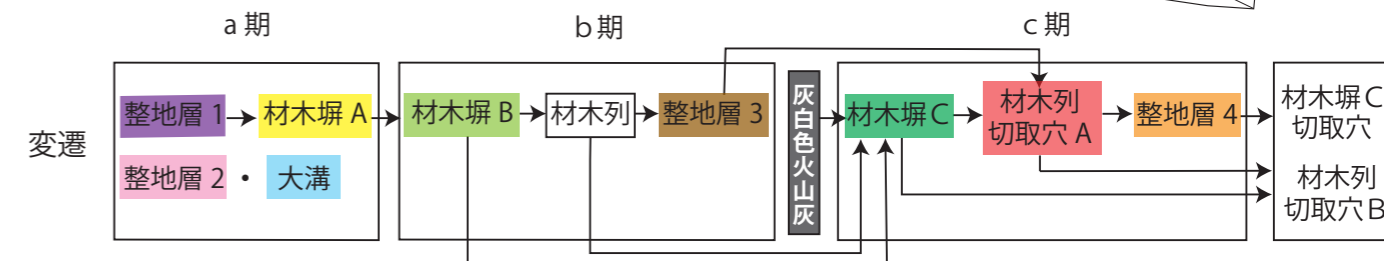
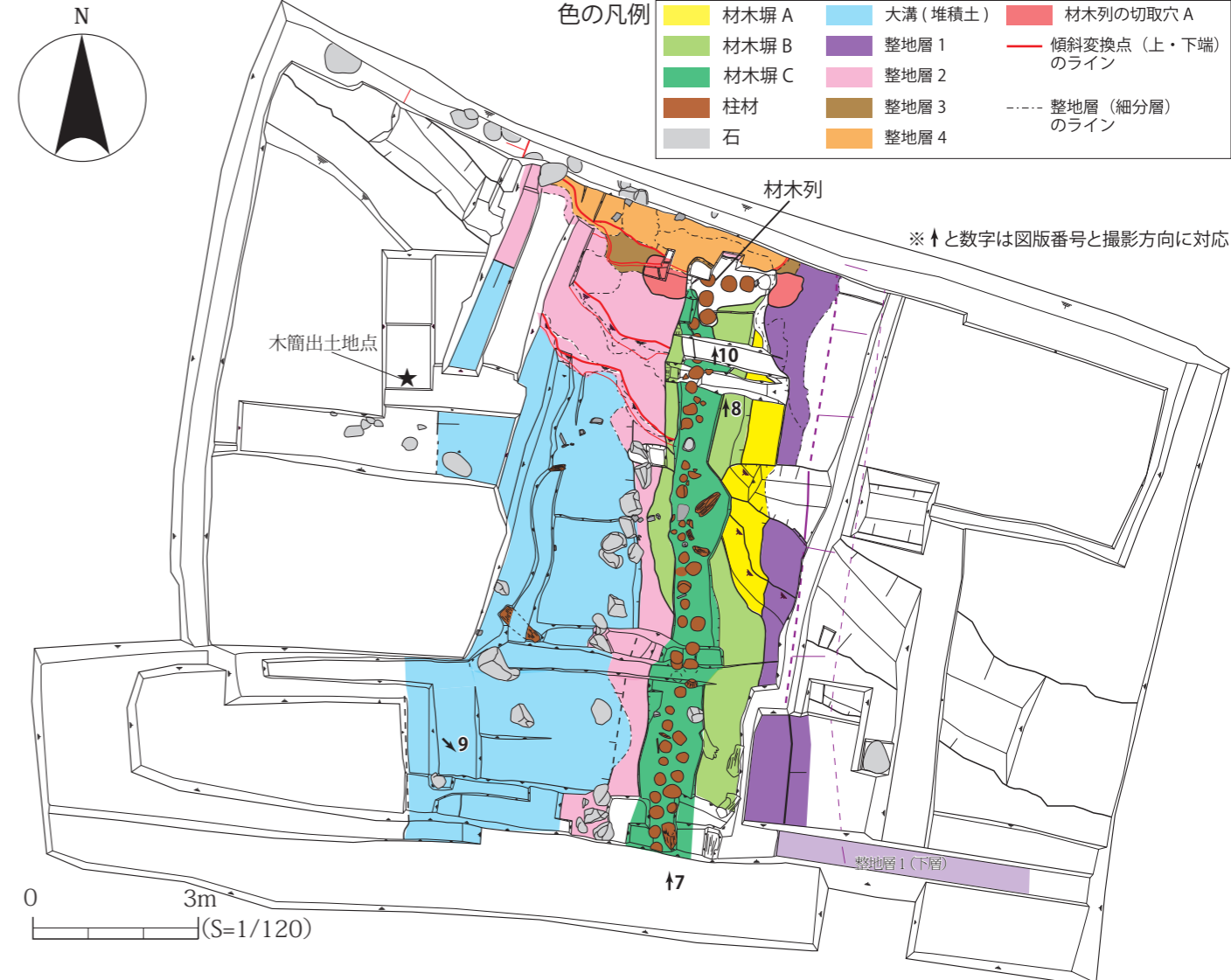
図版11 出土した木簡

大溝（図版 9）

材木堀の西側に沿って、南北方向に延びる大溝で、上幅は約 3.5m、深さは約 1.2m です。溝の東・北部は石や木で護岸されています。

材木列（図版10）

整地層 3・4 南端の土留めで、材木堀 B・C の北側に位置します。材木堀 B の北端と「T」字状に接続し、その後東西両端の材が切り取られ、「L」字状になります。



図版12 調査区平面図と遺構の変遷

4. まとめ

- 重複関係から 3 時期の変遷があります。a 期は材木堀 A・大溝・整地層 1・2、b 期は材木堀 B・材木列・整地層 3、c 期は材木堀 C・材木列・整地層 4 です。いずれも平安時代のもので、c 期が 10 世紀前葉以降（第 IV 期）、a・b 期はそれ以前であり、過去の調査成果から、a・b 期は 9 世紀～10 世紀前葉以前（第 III・IV 期）と推定されます。
- 過去の調査成果とあわせて、低地部の外郭西辺区画施設の北半は、材木堀と大溝で構成され、250m 以上延びることを確認しました。また、低地部に区画施設をつくるために、盛土による整地をして地盤を安定させたり、石や木で大溝の護岸を行ったり、丘陵部に向けてより高く土を盛るために材木による土留めを行うなど、様々な工夫がみられます。

第101次調査要項

所在地：宮城県多賀城市市川字新西久保地内
調査指導：多賀城跡調査研究委員会（委員長 藤澤 敦）
調査主体：宮城県教育委員会（教育長 佐藤 靖彦）
調査担当：宮城県多賀城跡調査研究所（所長 吉野 武）
調査協力：多賀城市教育委員会・宮城東部衛生処理組合
調査員：吉野武・村上裕次・廣谷和也・古田和誠・黒田智章・何戊琪
調査期間：令和 7 年 8 月 18 日～12 月（予定）

宮城県多賀城跡調査研究所

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎 1-22-1
TEL: 022-368-0102 FAX: 022-368-0104
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/taga/taga-top.html>

発掘現場から
文化力
POWER OF CULTURE

